



福祉のまちづくりの精神で 誰もが住みやすい地域社会に

加齢によって身体の働きが衰えたり、あるいは疾病などによって障害を受けるなど、自らの行動上で不自由な状態になることは、誰にでも想定されることです。日頃から保健や医療、福祉のサービスへ関心を持ち、地域における様々な活動への参加を通じて人との交流を心がけ、隣近所の人と気軽に挨拶を交わす、地域の子ども達へも関心を持ち、時には愛情を持って叱る。

市民の皆さんのほんの少しの気配りや簡単な行動が、福祉のまちづくりの大きな原動力になります。このような地域での人間関係や行動によって、そこに暮らす一人暮らしのお年寄りや障害のある人などを温かく見守りながら、福祉サービスに関する情報を提供し、必要な手助けを行うとともに、子どもへの虐待や非行などについても、適切な指導や援助の手を差し伸べることができるまちづくり。

福祉のまちづくりは、そこに暮らす人がともに支え合い、笑顔で安心して暮らすことのできる地域社会をつくることなのです。

